

～ありがとう～  
**卒業 金山さんち!**



皆に感謝をこめて 笑顔で卒業 作者:小栗こぐり



「広報かねやま」が  
入選2席・入選1席

1月下旬に審査会が行われた今年度の山形県市町村広報コンクールにおいて「広報かねやま」7月号が広報紙町村の部で入選2席を受賞。また、「広報かねやま」6月号の表紙が一枚写真の部で入選1席を受賞しました。入賞したどちらの号も町民の皆様から特に好評をいただいたもの。制作にご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。今更以上手に取って読んでもらえる、より良い広報紙づくりに努めていきたいと思えます。これからも「広報かねやま」をよろしくお願いたします。



山形大学の地域連携型サークル  
Team道草[写真部]が金山を散策します!  
Shot 9 ▶ 荒屋地区

あいにくの吹雪でしたが、今月は荒屋地区にお邪魔しました！牛を飼育している長倉さんを訪問。牛もカメラ目線で写ってくれてとても可愛かったです。他にも地区のお話を聞いたところ、俵神輿というイベントがあるそう。是非見てみたいと思いました！午後には写真立て作りも実施。次の写真展で使うので楽しみにしてください！



**金山町の人口は、5,666人**

1月末現在

**男性 2,751人 (-6)**

**女性 2,915人 (-2)**

**世帯数 1,770世帯**

▶ 1月の異動 ● 出生/4人 ● 死亡/11人  
● 転入/5人 ● 転出/6人

**編集 幸記**

▼全国的に大雪に見舞われた今シーズン。金山でも取材に行った先々で、「今年は参った」との声を聞きました。それもそのはず。金山観測所における史上最高積雪深である224cmに迫る191cmを記録しました。  
▼そんな豪雪真ただ中、台湾などからの旅行者の方々が金山を訪問。目を輝かせ、まるで子供のようにしゃべり姿に驚きまじりました。こもりと屋根に雪の積もる冬の街並みにも感動されたようです。  
▼どうしてもマイナス面に目が行きがちな「雪」。しかし視線を変えれば、地域性を活かした町おこしの「商品」に変身するかもしれません。(つま)

「森の子ども図書コーナー」

交流サロンぽすと内

No.147



「わたしのせいじゃない」  
(レイフ・クリスチャンソン/文 岩崎書店)

学校の教室で、ひとりの男の子が泣いています。いったいどうしたのでしょうか。「学校の休み時間にあったことだけど、わたしのせいじゃないわ」「始まった時のことを見ていないから、どうしてそうなったのかぼくは知らない」「ほんとはわたし見たの。知ってるの。でもわたしのせいじゃないのよ」「ぼくは怖かった。なにもしできなかった。見ているだけだった…。みんないろいろ自分の気持ちを話します。みんなが叩いていたからぼくも叩いた、その子が変わってるのであってみんなは普通だなどと。「わたしのせいじゃない?」これはどういうこと?

「図書室だより」

中央公民館内 9:00 ▶ 16:00



銀河鉄道の父  
門井慶喜/講談社

宮沢賢治は祖父の代から続く富裕な質屋に生まれた。家を継ぐべき長男だったが、賢治は学問の道を進み、理想を求め、創作に情熱を注いだ。勤勉、優秀な商人であり、地元の熱心な篤志家でもあった父・政次郎は、この息子に対する愛情を止められない。父でありすぎる父と夢を追い続けた息子の、対立と慈愛の月日。



身近にあふれる「科学」が  
3時間でわかる本  
左巻健男/明日香出版社

みなさんが何気なく過ごしている日常は、実は思った以上に科学まみれなのです。羽根のない扇風機はどうやって風を出しているの?ロボット掃除機の頭脳はどうなっているの?体脂肪計はお風呂あがりに使うと誤差が出る?紫外線はカルシウムの吸収を助ける?ドローンはラジコンヘリとは全然ちがう?

3月新刊本



- ほったらかし料理で肉食やせ!  
/ 渡部信幸
- 1日7分の絵本で子どもの頭はみるみる良くなる  
/ 浜島代志子
- まけるのもだいじだよ  
にじいろのさかな  
/ マーカス・フィスター
- 8年越しの花嫁  
キミの目が覚めたなら  
/ 中原尚志・麻衣
- ねこねこ日本史シリーズ 3冊  
/ そにしけんじ
- 本当は大切なこと  
偉人より、立派な人に  
/ 鈴木一作
- 西郷どん!上・中・下巻  
/ 林真理子
- 駒姫  
/ 武内涼

ふんげい

金山杉俳句会報 第四十三回

戸を開けて入りくる猫や隙間風  
初点前背筋正して茶を享くる  
青い空雪の高堂山窓に入る  
雪催植木に遊ぶ鳥の聲  
初層羽生結弦の勇姿かな  
水仙を生けて香りを楽しみぬ  
栗南瓜一つころがし冬至待つ  
八十の命貰いし福寿草  
童話読む魔女の声出し置炬燵  
ぐるりが山師の句偲び初句会  
おでん鍋湯気で涙を隠しけり  
節分や介護施設の笑い声  
あき子  
洋子  
サダエ  
敏子  
よし子  
順子  
荒屋 阿部 勝子  
林檎の査受けてにっこり年の暮  
老夫婦詣る社へ雪を踏み  
雪しまくハンドル握る懸命に  
かんじきを頼りに歩む果樹の畑  
無言なる石碑吹雪に耐へるたり  
山道を縫ふて兎の逃げ廻り  
菅越 庄司けみ子  
荒屋 関 喜美子  
羽場 坂本徳太郎  
七日町 青柳キエ子  
青空をちらり見せたる年初め  
法燈は不滅なりけり寒行者  
七日町 柴田 栖静  
冬の星みな美しく安らぎを  
水仙や香をあふれしめ花舗の朝  
漸くに孫も加わる年用意  
四季の国雪を都へ二度三度  
上台 阿部 一  
高雪庇たよるは細き命綱  
降り積もる雪に呆れし老夫婦  
七日町 村松 奈風  
灯芯へ慈顔ゆらげり初読経  
妻の肩かりて迎ふる寒行者